

増田宋太郎 まつた そうたろう 歌人、漢詩人。嘉永二年一月二十三日豊前國中津城下生れ、明治十年九月四日歿（八十九歳）。幼名久米丸（來付丸）。號神州館主人。母は渡邊重名の娘。九歳で従兄渡邊重右丸の道生館に入り、十五歳の時に既に既に詩作九十八篇を數へたといふ。明治四年皇學校を設け校長に推された。生徒二百餘人、まつた いとこ再従兄の誓を編澤諭吉系の市學校と對峙した。翌年學制發布により詩校が統一せられたため、教育界の糾弾を引く。七年民権論者となり、高知の立志社板垣退助と提携、中津に共愛社を興し、翌年「田舎新聞」を創刊。九年「中津新聞」社長兼編輯長となつた。翌年の西南役には、母郷隆盛の擧兵に呼應して中津隊を編成、坂元隊百餘名を率ゐるも戦死。

「増田宋太郎遺稿」(大正十四年五月二十七日兵庫・川口松次郎編刊)、
 「増田宋太郎歌集」(竹下敷馬編著、昭和十九年九月二十日鮎書房)
 がある他、岩田英一郎著「中津自由民権運動史」(昭和四十七年四月二十五日六分・私家版)には、共愛社、吉本民権中津隊の動靜を詳述、
 檄文等の史料も含め有益。

